

鈴木裕範教授 略歴・著作目録

略 歴

1948（昭和23）年 8月12日	千葉県銚子市に生まれる
1971（昭和46）年 3月	明治大学文学部を卒業
1971（昭和46）年 4月	株式会社和歌山放送に入社
2001（平成13）年 3月	株式会社和歌山放送を退社
2001（平成13）年 4月	和歌山大学経済学部助教授に採用
2007（平成19）年 4月	和歌山大学経済学部准教授
2012（平成24）年 4月	和歌山大学経済学部教授に昇任
2014（平成26）年 3月	定年により和歌山大学を退職

非常勤講師として出講した大学

放送大学和歌山学習センター

主な社会貢献活動

NPO フウドわかやま 顧問

黒江・温故知新の会 代表

きのくに教育協議会 委員（和歌山県教育委員会）

道徳的実践活動振興会議 委員（和歌山県教育委員会）

南部町情報化推進計画策定委員会 委員長

那智勝浦町歴史街道計画整備プラン策定協議会 委員

和歌山県道徳教育推進協議会 委員

きのくに活性化センター企画運営委員会 委員

きのくに活性化センター 事務局長

元気あるまちづくりをみんなで進める協議会 顧問（和歌山県本宮町）

みんなで作るまちづくり協議会 顧問（和歌山県本宮町）

「女性によるまちづくり」ワークショッププランナー（国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所）

専門高校等における日本版デュアルシステム推進事業運営委員会 委員（和歌山県教育委員会）

紀南地域におけるシーニックバイウエイ準備会 委員（国土交通省近畿地方整備局紀南河川国道事務所）

シーニックバイウエイ紀南推進協議会 委員（国土交通省近畿地方整備局紀南河川国道事務所）

特定非営利活動法人和歌山コミュニティ情報研究所 理事長

団塊世代が地域の担い手 地域貢献活動モデル事業選考委員会 委員（和歌山県）

国土施策創発調査検討委員会 委員

和歌山自立会議 委員 (和歌山県)

川上不白顕彰事業実行委員会 委員 (新宮市)

団塊世代の旅行需要の喚起に資する三世代旅行等の促進のための検討委員会・団塊世代部会・和歌山 WG
委員 (国土交通省近畿運輸局)

和歌山地域経済研究機構 理事

和歌山県地域・自治体問題研究所 理事

和歌山県地域・自治体問題研究所 理事長

熊野地域文化検定検討委員会 委員 (田辺商工会議所)

田辺広域市町村圏健康・観光産業クラスター推進協議会運営委員会 委員 (田辺周辺広域市町村圏組合)

団塊世代が地域の担い手 地域福祉活動モデル事業選考委員会 委員 (和歌山県)

湯浅町 TMO 中期5ヵ年行動計画策定委員会 委員 (湯浅町商工会)

社会起業家支援センター選考委員会 委員長 (和歌山県)

広川町みそ自慢大会 審査委員 (広川町商工会)

地域活性化委員会 委員 (御坊商工会議所)

地域活性化委員会 アドバイザー (御坊商工会議所)

社会起業家支援センター設置・運営事業等に係る選考委員 (和歌山県)

湯浅町食戦略会議 委員 (湯浅町産業観光課)

北山村総合評価特別委員会 委員

和歌山県 NPO センター 理事

伝統食文化ブラッシュアップ事業研究会 座長 (わかやま産業振興財団・きのくに活性化センター)

緊急雇用創出事業臨時特例基金活用事業企画提案事業実施に係る審査会 委員 (和歌山県農林水産部)

和歌山城から始めよう! みんなにやさしい和歌山をつくる会 理事

著作目録

(1) 著書

— 単著 —

『紀州の和菓子～その文化とまちづくり～』和歌山リビング新聞社，2012年3月

— 編著 —

『秋津野塾 未来への挑戦～田辺市上秋津の地域づくり～』[鈴木裕範編著]きのくに活性化センター，
2004年3月

『社会・地域貢献で世直し NPO・企業・大学・農村に新しい風』[岩田誠・鈴木裕範編著]日経大阪PR，
2005年3月

— 監修 —

『奥熊野・北山村の民俗誌 100 の話で語る村の今昔』和歌山県北山村，2013年3月

(2) 論文

「不白，ふるさと熊野に帰る——川上不白と新宮・まちづくりプロジェクト——」財団法人江戸千家茶道
会『孤峰』平成20年3月号，2008年3月

「食とその文化を活かす地域づくり——都市との交流連携による地域コミュニティの再生——」橋本卓爾・
大泉英次編『地域再生への挑戦——地方都市と農山村の新しい展望——』日本経済評論社，2008年4月

「地元学の理念と実際——地域づくりのための方法論——」和歌山大学『経済理論』第350号，2009年7月

「熊野の産業と特産品／熊野の食文化／熊野の地域づくりと観光」田辺商工会議所編『熊野地域文化検定
テキストブック』，2009年9月

「市場再生とコミュニティの再生」和歌山市・市場活性化研究会『和歌山市における市場活性化について
の研究』（和歌山地域経済研究機構・研究成果 No.19），2010年3月

「寺内町におけるコミュニティと住民合意の形成をめぐる——今井町・富田林市の景観保存とまちづく
り——」和歌山大学『研究年報』第14号，2010年9月

「食と景観を生かした寺内町活性化モデルの研究——伝統と創造の生活空間の構築——」御坊商工会議所・
和歌山大学『平成21年度共同研究報告書』，2010年9月

「熊野の地域資源と協働の地域づくり～山村からの視点～」『国際熊野学会会報』第18号，2013年1月

「試される住民自治と地域の力——廃校舎・遊休施設の利活用で始まる地域再生——」公益財団法人えひ
め地域政策研究センター『舞たうん』Vol.117，2013年7月

(3) 研究ノート

「丹生川・宿の民俗誌」和歌山県地域・自治体問題研究所『くらしの目でみる紀ノ川——いま，いのちの
水が危ない』，2001年5月

- 「世界遺産登録運動と熊野」和歌山県地域・自治体問題研究所『わかやま住民と自治』第135号, 2002年1月
- 「森林保全と林業の活性化をめざす——「ごっくん馬路村」の山村再生への取り組み——」『わかやま住民と自治』第140号, 2002年6月
- 「木を植えた男・井部栄範～語られなかった紀州人～」和歌山大学『経済理論』第313号, 2003年5月
- 「らしさ」追求の地域づくり～自立・協働・ネットワークのなかで～」和歌山大学『経済理論』第318号, 2004年3月
- 「山村で高齢者の生活とコミュニティを守る 愛媛県柳谷村に学ぶ地域づくり」『わかやま住民と自治』第158号, 2004年4月
- 「山村で高齢者の生活とコミュニティを守る 愛媛県柳谷村に学ぶ地域づくり」『わかやま住民と自治』第159号, 2004年5月
- 「地域コミュニティ再生を担うのはだれか——女性・高齢者が主体の地域づくり——」和歌山大学『経済理論』第324号, 2005年3月
- 「里芋のフォークロア 里芋が語る食文化と地域」『わかやま住民と自治』第168号, 2005年4月
- 「地域の暮らしと文化を耕す——福井県小浜市・食を生かした地域づくり——」和歌山大学『経済理論』第329号, 2006年1月
- 「都市のなかの物語の誘惑～長崎さるくは大人の旅の始まりか～」『わかやま住民と自治』第212号, 2009年9月
- 「和歌山県内の3城下町における和菓子文化の研究～地域文化としての和菓子文化の再評価とまちづくり～」和歌山大学経済研究所『地域研究シリーズ』第38号, 2010年11月

〔4〕研究資料・調査研究報告書

- 「森と水の保全と地域の再生——高知県・四万十川流域と馬路村の地域づくり——」和歌山大学『経済理論』第309号, 2002年9月
- 「南海地震・東南海地震が襲う——そのとき住民, 行政は?そしてメディアは?——」(調査報告) 和歌山大学経済学部 鈴木研究室, 2006年3月
- 「北山村における食を活かした地域づくりの可能性——女性たちとの連携による家庭料理レストラン開店への取り組み——」和歌山大学経済研究所『地域研究シリーズ』第31号 2006年12月
- 「地域研究「老舗の哲学・暮らしの思想～御坊市・寺内町の魅力と可能性」」(調査報告) 和歌山大学経済学部 鈴木研究室, 2010年9月
- 「南海・東南海地震に備える～串本町からの報告～」(調査報告) 和歌山大学経済学部 鈴木研究室, 2009年3月
- 「食と景観を生かした寺内町活性化モデルの研究～伝統と創造の生活空間の構築～」御坊商工会議所・和歌山大学 平成21年度共同研究報告書, 2010年9月
- 「田辺市並びに奈良県十津川村における食文化とその可能性～聖地熊野を核とした癒しと蘇りの観光圏事業」調査報告書 [大西敏夫氏および学生と共同執筆], 2011年3月
- 「湯浅町山田地区 食文化報告書～ハレの日の食事の特色と地域資源化の可能性～」(調査報告) 和歌山大

学経済学部 鈴木裕範研究室, 2011年12月

「太田・むらの生活と文化誌～太田川流域に生きる人びと～」(調査報告) 和歌山大学経済学部 鈴木裕範研究室, 2012年3月

「串本町における南海・東南海地震に関する住民意識調査」(調査報告 Vol. 3) 和歌山大学経済学部 鈴木裕範研究室, 2013年3月

(5) その他(学外刊行物等)

「人が変わり、地域が動く～京都府・大宮町の人材育成とコミュニティづくり～」きのくに活性化センター
『NEWSきのくに』第2号, 2002年11月

「なぜサルを殺してはいけないのか——サルをめぐるフォークロア——」『NEWSきのくに』Vol. 9,
2007年4月

「茶の湯文化を商店街の活性化に活かす——江戸時代の大名茶人松平不昧が生きるまち松江市——」
『NEWSきのくに』Vol. 10, 2008年4月

「辺境の離島は、なぜ人をひきつけてやまないか?——隠岐海士町の地域戦略「島まるごとブランド化」——」
『NEWSきのくに』Vol. 11, 2008年9月

「フォーラム「川上小白が発信するもの」から」『NEWSきのくに』Vol. 12, 2009年1月

「紀州の和菓子1 和菓子のなかの和歌山物語」和歌山県国民教育研究所『わかやまの子どもと教育』第
33号, 2009年9月

「紀州の和菓子2 本ノ字饅頭と和歌山市の菓子文化」『わかやまの子どもと教育』第34号, 2009年12月

「紀州の和菓子3 伝統が生きる正月のお節菓子」『わかやまの子どもと教育』第35号, 2010年3月

「紀州の和菓子4 年中行事と和菓子——柏餅の地域性と熊野——」『わかやまの子どもと教育』第36号,
2010年6月

「天野らしさを生かした地域づくり。ここに住み続けるために今頑張るとき」『わかやま住民と自治』第
220号, 2010年6月

「日本有数の美しい村 天野の物語を紡ぐ」『わかやま住民と自治』第221号, 2010年7月

「紀州の和菓子5 鮎菓子文化, 夏の川辺の風景」『わかやまの子どもと教育』第37号, 2010年9月

「食文化で地域をつなぎ直す。コミュニティの再構築へ」『わかやま住民と自治』第223号, 2010年9月

「紀州の和菓子6 和菓子以前の古いすがたを伝承・龍神村の丸袖べし」『わかやまの子どもと教育』第38
号, 2010年12月

「コミュニティが創る——「白い森」と田沢頭自治会の地域づくり——」『NEWSきのくに』Vol. 13, 2011
年3月

「紀州の和菓子7 高野山・寺院文化が育んだ和菓子文化」『わかやまの子どもと教育』第39号, 2011年
3月

「紀州の和菓子8 花ざかりの森逍遥」『わかやまの子どもと教育』第40号, 2011年6月

「紀州の和菓子9 合掌の心あらかわす和歌山の「いが餅」」『わかやまの子どもと教育』第41号, 2011年9月

「和歌山のすし文化 なれずし」『大人の自愉時間 let let-age 【04】』(和歌山リビング新聞社), 2011年9月

「風待ちの港・大崎と地域づくり～豊饒の海の資源と地域再生～」『わかやま住民と自治』第235号, 2011

年12月

「紀州の和菓子10 「花びら餅」——新春からの旅——」『わかやまの子どもと教育』第42号, 2011年12月

「紀州の和菓子11 鯨の町のでつめん餅」『わかやまの子どもと教育』第43号, 2012年3月

「紀州の和菓子12 街道の名物菓子と加多街道の糸切餅」『わかやまの子どもと教育』第44号, 2012年6月

「大学と地域——協同の仕組みの構築と可能性～ゼミナール活動による実践～」和歌山地域経済研究機構
『地域経済』第16号, 2012年7月

「紀州の和菓子13 埋もれた紀州の和菓子の物語二題」『わかやまの子どもと教育』第45号, 2012年9月

「地域再生の場としての廃校舎——「学校」を基点に地域と人の連携・協働へ——」『NEWSきのくに』
Vol. 16, 2012年10月

「紀州の和菓子14 月と和菓子」『わかやまの子どもと教育』第46号, 2012年12月

「紀州の和菓子15 雛祭り」と和菓子たち」『わかやまの子どもと教育』第47号, 2013年3月

「紀州の和菓子16 『源氏物語』の世界へつづく白と緑の和菓子・椿餅」『わかやまの子どもと教育』第48
号, 2013年6月

「紀州の和菓子17 七夕と和菓子」『わかやまの子どもと教育』第49号, 2013年9月

「紀州の和菓子18 伝統の行方。和歌浦煎餅の味と老舗の廃業」『わかやまの子どもと教育』第50号,
2013年12月

「紀州の和菓子19 本州最南端の町に復活 竹皮包み本煉羊羹」『わかやまの子どもと教育』第51号,
2014年3月

〔6〕その他（観光マップ）

「和歌山大学生が作った「トンボロの町」串本町 町なかの歩き方」和歌山大学経済学部鈴木研究室 [串
本商工会からの委託], 2010年3月

「和歌山大学生が作った「熊野の港町・古座の道歩き」」和歌山大学経済学部鈴木研究室 [串本商工会から
の委託], 2011年3月

「和歌山大学生が作った「くしもと・大島の歩き方」」和歌山大学経済学部鈴木研究室 [串本商工会からの
委託], 2012年3月

「和歌山城東西南北 和歌山城から歩く城下町とお菓子めぐり」和歌山大学経済学部鈴木研究室, 2014年
3月

〔7〕その他（新聞への寄稿文）

「和土曜講座 メディアは何を伝えたか、そして何を伝えられなかったのか」ニュース和歌山, 2001年
8月25日

「家庭の味として継承されるサバずし 和歌山が日本に誇る食文化」リビング和歌山（和歌山リビング新聞
社）, 2009年11月14日

「紀州から始まる魚食文化 和歌山県は1本釣り発祥の地 紀州漁民のパイオニア精神と発案力が光る～
すさみケンケン鯉～」リビング和歌山, 2010年4月24日

「紀州から始まる魚食文化3 古代日本文化が現在の和歌山に残り 漁法や食べ方も地域の特色が光る～

- 日本古来の食文化として語り伝えたい鮎〜」リビング和歌山, 2010年6月5日
- 「紀州から始まる魚食文化4 江戸時代に贈答用として贈られた高級魚 東西日本で全く違う食文化がある鱧〜和歌浦湾の鱧が関西の食文化を支えた〜」リビング和歌山, 2010年7月3日
- 「紀州から始まる魚食文化5 漁師の家庭で伝わる飛魚料理 串本の食文化を広げる新たな活動が始まる〜知られざる空を飛ぶ魚の味〜」リビング和歌山, 2010年8月28日
- 「紀州から始まる魚食文化6 和歌山市民は日本一の海老好き “紀州足赤えび”のブランド成長に期待〜日本人は古くから海老が好きで民族〜」リビング和歌山, 2010年10月16日
- 「紀州から始まる魚食文化7 高度成長期とともに食文化が発展 マグロを語るふさわしい土地が和歌山県〜日本はおいしさにいち早く気付く“マグロ王国”に〜」リビング和歌山, 2011年1月22日
- 「「そうだ、市場へ行こう」。〜コミュニティ再生の核に」わかやま新報 紀州発をんな情豊局, 2011年2月4日
- 「紀州から始まる魚食文化8 鯛漁で日本漁業の礎を築いた紀州人〜経済成長を遂げた江戸時代は鯛を肥料に使用〜」リビング和歌山, 2011年4月2日
- 「紀州から始まる魚食文化9 紀州から語りたいたスズキ目イサギ〜和歌山県の魅力は海と食卓のフード・マイレージのちいささ〜」リビング和歌山, 2011年5月28日
- 「紀州から始まる魚食文化10 粉河地域に伝わる祭りとの地域文化〜半夏生に珍重された食材・蛸〜」リビング和歌山, 2011年7月23日
- 「紀州から始まる魚食文化11 紀州の食文化はやせたサンマならでは〜お正月や伝統行事のごちそうとして振る舞われる味〜」リビング和歌山, 2011年10月8日
- 「紀州から始まる魚食文化12 東京・築地で評価が高い和歌山産のホウボウ〜鯛にも通じるめでたい祝い魚として全国各地で珍重される〜」リビング和歌山, 2012年2月18日
- 「紀州から始まる魚食文化13 太刀のように鋭く美しく、そして“美味”なる魚〜昔から伝わる有田の食文化、工芸品にも利用〜」リビング和歌山, 2012年6月9日
- 「紀州から始まる魚食文化14 もっともっと知りたい謎めく魚の魅力〜「クエ祭の町」日高地方に生きるクエの食文化〜」リビング和歌山, 2012年9月29日
- 「紀州から始まる魚食文化15 食文化が一般化したのは戦後以降〜縁起物として珍重され、ハレの日の食材に〜」リビング和歌山, 2012年12月8日
- 「熊野の地域資源と協働の地域づくり〜山村からの視点〜」『国際熊野学会会報』Issue18, 2013年1月1日
- 「紀州から始まる魚食文化 最終回 肉より歴史が古く和歌山の魚食文化を総称する料理〜和食が注目を浴びる中、国内外に発信を〜」リビング和歌山, 2013年2月9日